



平成 30 年 5 月 21 日
佐賀大学理工学部

佐賀市適応指導教室「くすの実」で大学院生らが理科実験教室を実施

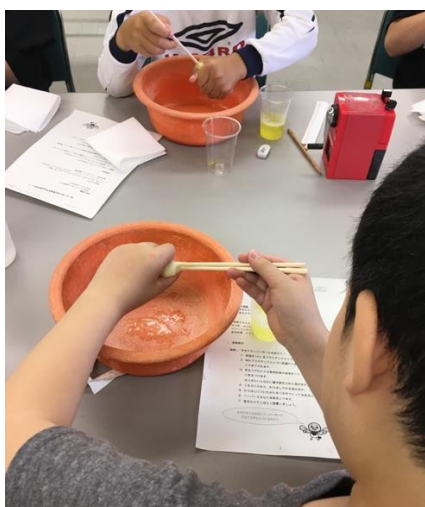
【概要】

佐賀市旧青少年センターにある不登校支援機関の適応指導教室「くすの実」にて理工学部の教員と循環物質化学専攻大学院生らが本年度最初の理科実験教室を実施しました。

【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である適応指導教室「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子供達の就学意欲を惹起することを目的に行なっています。大学が支援する理科実験教室は全国でも数少ない活動として現在まで継続しており、平成 17 年に当時の工学系研究科 児玉 浩明 教授（現佐賀大学理事）が始めてから今年で 14 年目にあたります。

本年度はじめての理科実験教室は平成 30 年 5 月 18 日(金)に循環物質化学専攻の大学院生、機能物質化学科の大学 4 年生が理工学部機能物質化学科 長田 聡史 准教授とともに「手作りスーパーボールと光るスライム」の実験を行いました。子供達の安全面への配慮や若い感性を活かしたコミュニケーションのため、今回は 3 名の学生がボランティアで参加しました。



「理科実験教室」の様子（左：手作りスーパーボール作成，右：スライム作成）